令和６年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

逗子市立久木小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等　●課題や改善点等）

【　国語　】

≪言葉の特徴や使い方に関する事項≫

○「話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる問題」「文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる問題」は、県の正答率とほぼ同じである。

●県の平均を 5.1 パーセント下回っている。特に、「学年別配当表に示されている漢字を文正しく使うことができるかどうかをみる問題」2 問の正答率が平均 46.6％と、県の正答率よりも平均 8.9 パーセント下回っている。

●平均点が大きく下回っている問いへの無答率が、県の平均値よりも約 6 パーセント高くなっている。

≪情報の扱い方に関する事項≫

○正答率 84.6％と高いが、県の正答率と比べると 3.1％下回っている。無答率は県の平均値よりも 0.2％下回っている。

≪話すこと・聞くこと≫

○3 問中 2 問が県の正答率を上回っている。特に「目的や意図に応じて話題を決めたり、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題」の正答率は 68.3％と、県の平均を 3.3％上回った。

●「資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題」については正答率 51.0％で、県の正答率を 2.5％下回り、無回答率も 0.8％高くなっている。

≪書くこと≫

○「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題」については 81.7％の正答率であり、県の正答率を 0.4％上回っている。

●「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題」では正答率 45.2％と、県の正答率を 10％下回っている。

≪読むこと≫

○「登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題」は正答率 71.2％、「人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる問題」は、正答率 76.0％で、県の正答率をそれぞれ 3.2％、3.7％、上回っている。

●「表現の効果を考えることができるかどうかを見る問題」は正答率 63.5％で、県の正答率を５％下回っている。

≪児童質問紙　国語に関する質問≫

○93％の児童が国語の勉強は大切だと感じ、91.9％の児童が社会に出てから役立つと思う、と回答している。

●「国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語の全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目しているか」という問いの回答は、県の平均より 4.4％低くなっている。

【　算数　】

≪数と計算≫

●5問中、すべての項目で県の正答率と比べて下回っている。「問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる問題」は正答率57.7％で5.7％、「除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかを見る問題」は正答率68.3％で7.8％下回り、無答率が9.6％と、県の無答率と比べて5.5％高くなっている。また、特に「計算に関して成り立つ性質を活用して計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題」は正答率45.2％で、県の平均より12.1％と大きく下回っている。無答率は県の平均と同じである。

≪図形≫

○「直径の長さ、円筒の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかを見る問題」の正答率は73.1％と、県の正答率を1.8％上回っている。

●「球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題」は正答率31.7％、「立方体の見取り図について理解し、かくことができるかどうかをみる問題」は正答率81.7％で、県の平均正答率と比べてそれぞれ６％、3.8％下回っている。

≪変化と関係≫

○３問中２問が県の正答率と比べて上回っている。特に「速さの意味について理解しているかどうかをみる問題」は正答率62.5％と、県のそれを6.5％と大きく上回っている。

●「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる問題」は、正答率76.0％で県平均より1.6％上回っているが、無答率が5.8％と、県平均より1.8％高くなっている。

≪データの活用≫

○「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題」の正答率は46.2％で、県平均より2.2％高い。

●「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる問題」の正答率は71.2％で、県平均より8.2％下回っている。

≪児童質問紙　算数に関する質問≫

○90.4％の児童が算数の大切さを感じ、81.8％の児童が内容がよくわかると回答しており、96％の児童が社会に出てから役立つことを認識している。

●「算数の勉強が好きか」という質問に21.2％、「算数の勉強は大切か」という質問に4.0％の児童が「当てはまらない」と回答し、それぞれ県の平均より3.4％、2.1％高くなっている。

●「算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとするか」の質問に「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童が43.5％おり、県の平均より7.8％高くなっている。

◎児童質問紙の結果　特徴的なことや課題と考えられること等

○「朝食を毎日食べていますか」は91.9％の児童が「している」「どちらかといえば、している」と回答している

○「放課後や週末に何をして過ごすことが多いか」という問いの回答から、週末などは家で好きなことをしながら、家族と過ごしている様子がうかがえた。また、スポーツも含む習い事に取り組んでいる児童が県平均より 5.4％高くなっていた。このことから、他地域よりも、自分の好きなことに積極的に取り組んでいる児童の姿が見えた。しかし、地域の活動（地域住民などによる学習やプログラム）に参加している児童が 2.0％と、県平均の半分であった。

○「わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできているか」という問いには「できている」「どちらかというと、できている」と回答した児童が84.8%で、県平均より3.3%上回っている。校内研究で取り組みを続けてきた成果として、児童の探求心が育っていることを感じる。

●「毎日、同じくらいの時間に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時間に起きていますか」の質問に「している」「どちらかといえば、している」と答えた児童はそれぞれ82.9%、88.9%で、県平均と大差ないが、「全くしていない」と回答する児童が、5.1%、4.0%おり、県の平均より2～3%高くなっている。家庭での過ごし方に違いがあることを感じる。

●「携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っているか」という問いに対し、「あまり守っていない」「守っていない」と回答した児童が9.1%で、県平均より4.3%高くなっている。約束があるのにそれを守っていない姿が見える。

●「将来の夢や目標を持っていますか」という問いに対し、「当てはまらない」と回答した児童が12.1%と、県の平均より3.2%多かった。また、「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか」の問いに7.1%が「当てはまらない」と答えているところから、学校ではさらに児童の良さを認め、将来に対する希望を持つことができるような声掛けや支援をしていきたい。

○「放課後や週末に何をして過ごすことが多いか」という問いには、県の平均との差が大きいものから順に、「習い事（スポーツに関する習い事を含む）」53.5%で差は15.9%高く、次いで「友達と遊んでいる」が78.8%で差は13.2%高く、「習い事（スポーツに関する習い事を除く）」が48.5%で7%高くなっている。

●同じく「放課後や週末に何をして過ごすことが多いか」という問いで、県の平均と比べて数値が低いものは、「学習塾など学校や家以外の場所で勉強している」が27.3%で6.1%、「放課後子供教室や放課後児童クラブ（学童保育）に参加している」が1.0%で4.7%、「地域の活動に参加している」が2.0%で2.0%下回っている。

◎調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

・引き続き、児童が自ら目標を立てて学習を進め、対話を通じて学習を深め、自分の考えを構築していく「主体的・対話的な深い学び」になるような授業づくりを行うようにする。その際、自分の考えなどを書くなどの言語活動に特に重点を置いて指導する。また、主体的・対話的な授業を行うことができるような、学級経営、児童指導を行い、児童同士のつながりをつくっていく。

・国語や算数の調査結果から、正答率の高い児童とそうでない児童が二極化をしている状態が見て取れた。無答率も県の平均より高くなっていることが目立つ。校内研究を充実させ、学習に困難さを感じている児童への支援方法を考えていくとともに、国語での読み取りの力が算数など他の教科の学習の理解に影響をしてしまっている傾向も見て取れたので、読書の習慣をつけるなど、文章を読むことに慣れ親しませる活動を取り入れていきたい。

・学校生活全般で、児童自らが自分の課題意識をもち、それについて考えるよう、学級会や委員会活動、代表委員会などを活用していきたい。また、日ごろの先生方のかかわり方を見直し、児童との信頼関係をさらに築いていくと共に、将来や数年後の自分の姿をイメージさせ、社会や人とのかかわりの中で自分を生かすことができるようになるよう、指導を続けていきたい。

・地域の活動に参加している児童が少なかった。コミュニティスクールを機に、地域の方と協働できることを増やし、多くの児童が参加できるような仕組み作りやアナウンスを進めていきたい。